



近畿地域の経済は、低迷しているものの一部に持ち直しの動き

1. 全体の動向

輸出は中国等アジア向けを中心に持ち直しの動き。設備投資は一部に積極的な動きがあるが、素材型製造業を中心に計画を大幅減額。個人消費も減少。

こうした中、生産に持ち直しの動きがみられるものの、雇用はさらに悪化するなど、総じて近畿地域の経済は、低迷している。

2. 個別の動向

(1)生産 ～持ち直しの動き～

これまでの急速な減産によりほとんどの業種で在庫調整が進展。中国等での需要の増加もあり、電子部品・デバイス、電機、鉄鋼、化学等多くの業種で持ち直しの動きが見られる。

(2)設備投資 ～高水準ながら弱い動き～

薄型TVパネルや電池関連の大型投資が継続している状況下、一部での稼働前倒し、環境・エネルギー分野への研究開発投資の予定もみられる一方、素材型製造業を中心に大幅減額、中小企業ではより慎重となっている。

(3)雇用情勢 ～さらに悪化している～

希望退職者の募集や新卒・中途採用の大幅縮小により、人員削減の動きが正社員にまで広がる一方、休業日を設け雇用調整を行う企業もみられる。残業時間、賃金、賞与はともに減少傾向。

(4)個人消費 ～減少している～

消費マインドの低迷等により、百貨店やスーパーで減少が続いている。家電はエコポイントで増加するも、ボーナス削減等で先行きを懸念。

3. 地域経済のトピックス

○輸出は中国等アジア向けを中心に持ち直しの動き。このため近畿の全国比も上昇傾向。ただ、欧米向けは先行き悲観的なところが多い。

○製造業では在庫調整が進展し、業況も7-9月から緩やかに回復することを期待するも、中小企業や設備投資関連は当分、厳しい状況を見込んでいる。

○公共投資やエコカー減税・補助金、エコポイント、高速道路割引は、一定の効果が見られ、建設、車、家電、ETC等関連業種で高評価。

○新型インフルエンザ感染拡大で、観光、宿泊、小売、旅客関連が大打撃。